

第64回日本公衆衛生学会総会（札幌）へのお誘い

第64回日本公衆衛生学会総会会長
北海道大学医学研究科教授
岸 玲子

第64回日本公衆衛生学会を札幌市で開催するにあたって、新年のご挨拶申し上げるとともに、17年ぶりに北海道で開催される本学会へ是非、御参加くださいますように現在までの準備の状況と歓迎の言葉を述べさせていただきます。

総会開催にあたりましては、これまでに北海道、札幌市、医師会など関係諸機関の皆様、北海道大学など大学関係の方々と協議しまして、実行委員会と学術部会を設け準備を進めております。

2005年の第64回総会テーマは「環境と人権がつくる人々の健康と安全」としました。本年はちょうど第2次大戦後60目にあたります。この間、幸いにも平和だった日本では公衆衛生が地道で着実な発展をとげることができました。しかし世界的に見るといまだ各地で戦争や内戦は引き続き、かつてない大規模の災害や地球規模の環境問題も起きています。また「長寿国」とは裏腹に日本では子どもたちの心身の健康問題や虐待、あるいは働く人の自殺やホームレスの増加など今までの公衆衛生的取り組みでは十分対応できていない問題が広がりつつあります。地方分権の潮流など種々の意味でわが国の公衆衛生も歴史的な大きな転換点にさしかかっていると思われれます。そこで本年の学会は“環境”と“人権”という根源的な二つの視点から世界と日本に生きる人々の“健康と安全”の問題を深く考えることにいたしました。

特別講演はお三方にお願いしました。獣医師・写真家の竹田津実氏が「野生が伝える環境の今」という題で、また北海道大学法学研究科（公共政策大学院）の山口二郎教授が「日本における社会保障をめぐる政治……リスク社会においてリスクをいかに負担するか」というテーマで話されます。さらに長野県諏訪中央病院（保健医療福祉管理者）の鎌田實氏のお話しは「草の根の国際保健協力——チェルノブイリ事故後のベラルーシと戦場になったイラクから学ぶもの」です。今後の公衆衛生の課題、活動の方向性、理念などに貴重な御示唆をいただければと思っております。

シンポジウムは、メインシンポジウム「環境と人権の視点からみたまちづくりと公衆衛生」のほか、9つの今日的なテーマで、かつ魅力的な内容で計画中です。教育講演は6題で「国際保健協力」「保健医療政策の現在・未来」など最近のトピックスに加えて北海道にゆかりが深い「アイヌの歴史と文化」などもお願いする予定です。フォーラムは、「公衆衛生大学院」、「虐待予防」、「HIV感染症」を予定し、加えて、本学会では初めて「実践教育ワークショップ（行動変容ケースメソッド）」も計画中です。なお、学会の一部は市民向けに開放します。学会員のみならず市民の皆様とともに、学び交流する機会になることと思います。

総会が開催される「札幌コンベンションセンター」は、最新の設備を備えた陽光があふれる新しいタイプの会議場です。自由集会も含めて同一会場で実施できます。年に一度の学びの場である本学会が、全国の会員の皆様にとって和気藹々と楽しい出会いと語らいの場でもあることを願っております。

最後になりましたが、北海道は日本随一の自然に恵まれ、「大雪山」「阿寒」「知床」「利尻礼文サロベツ」「支笏洞爺」「釧路湿原」と6つの国立公園を有しております。学会参加の皆様がたには、この雄大な大自然と北海道の初秋の清々しさ、美しさを十二分に堪能していただき、明日の公衆衛生活動に向けて英気を養う機会にもなるようにと祈念しています。

（開催時期は、例年より約1ヶ月早く9月14-16日です。そのため学会の一般演題締め切り時期が5月10日ですのでよろしく願いいたします）